

週刊 学びのコミュニティー

第 20 号

平成 21 年 7 月 8 日発行

この“学びのコミュニティー”は創刊から 4 ヶ月を過ぎ、第 20 号を迎えました。「毎号読んでます」そんな嬉しい言葉を掛けて頂くことも…今後もこの取組と共に発展し、学生―社会人―教員、三者のコミュニティーの形成に一役を担えたらと思っています。お気軽にご意見、ご感想をお寄せください。

【話題】社会人のかたへのインタビューを通して、光永が学び、感じ取ったことをお伝えします。

私たちの取組を紹介しているHPに、〈学ぶ・語る・出会う〉社会人ボランティアの声というコーナーを設けている。これは、授業に参画されている社会人のかたにインタビューさせていただき、その人となりを紹介できればとの思いからスタートさせたものだ。

私は社会人のかたに、とにかくじっくりと話を伺いたいと思っていた。この取組に対する批評や、大学へのメッセージをという意味もあったが、人と人との出会いとして、社会人のかたと向き合い、生きてきた歴史や価値観を知りたいと思ったのだ。どんなかたがこの取組に参加しておられ、どのような価値観の積み重ねが現在を創っているのかを。

未だ、すべてのかたにお話をうかがえたわけではないが、私はこのインタビューを通じて実に多くのことを学んだ。

コーナーの題名にもあるように、社会人のかたから強く感じることは「出会うこの大切さ」である。人との出会い、本との出会い、学問との出会

い・・・そしてそこから生まれる学びを楽しいと思ひ、語る言葉に命が吹き込まれる。この自然なサイクルを内在させていることが社会人のかたの魅力であり、おおいに触発される部分である。

しかし、自然な学びのサイクルとでも名付けたこの現象は、それぞれの経験、体験によって蓄積され、形成されている部分が多いと言える。これから様々なことに出会うであろう学生に、このサイクルが内在化されていないとしても不思議ではない。ただ、その年齢に応じた大きさの学びのサイクルが生まれていることが大切なのだと思う。

伺ったお話はどれも感動的で、すべてがオリジナル。語る言葉はまさに人生そのもの。だからこそ、その発言を聞いて学生が一体何を感じ、何を学ぶのか。それもまた学生の個性に反映されるだろう。自然な学びのサイクルが育まれることを期待したい。(光永 雅子)



お話を聞かせてくださった社会人のみなさま、ありがとうございました。まだお話を伺えていないかたにも順次インタビューさせて頂く予定でおります。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

学びのコミュニティー 勉強会を行いました！

先々週に引き続き、7月2日（木）14時30分～16時まで、学生支援室にて勉強会を行いました。今回のテーマは『**社会人としての自覚**』、社会人



田村貞夫さんからの話題提供です。田村さんは退職後、60歳から大学へ進学し、学生さんと膝を突き合わせて学んできました。現在は非常勤講師

として、数々の授業に参加する傍ら、それ以外の時間は学生支援室に在室し、図書選びの相談に乗るなどして学生さんと関わっていらっしゃいます。そんなご経験を通して、社会人としての心構え、企業の中で身に付けるべきこと、大人としてたしなむ嗜好品に…多岐に渡り、お話ししてくださいました。

そして、自分の住む＜徳島＞を知ることが大切であり、必要なことなのでは。もっともっと歴史などを含め徳島を知って、よりよくなっていきませんか…そんなメッセージを投げ掛けてくれました。そのためにはどうしたらいいのだろうか？参加者全員で考えました。それぞれが徳島について関心を持って、いろいろな場所に足を運び、いろいろな人に触れる。一人ひとりがしっかりと徳島のことを認識し、それを発信するパワーを持つ。そんな意見が出されました。自分の住む土地を改めて見直す、よいきっかけになったのではないかと思います。



ちなみに…田村さんからの宿題！こんな問題が出されました。（一部抜粋）

- Q. 阿波藩を治めた初代藩主は？
- Q. 徳島県に在住したポルトガル出身の文学者は？
- Q. 阿波踊りの由来について知っていることを書きなさい。
- Q. 徳島県で初めて文化勲章を受章した人は？
- Q. 徳島県の木、県の花、県の鳥は？

みなさんはいくつ
ご存じですか？

今後もさまざまなテーマを取り上げて、勉強会を継続していきたいと思っております。次回は、詳細が決まり次第お知らせいたします。お楽しみに！

★今週のおすすめ★

全学共通教育センター教員

書籍：怖い絵 出版社：朝日出版社

著者：中野 京子

書評：さすがに売れている本だなあという実感がわく。「怖」という視点で様々な絵画を分析。その背後にある歴史、思想を知ることができる一冊。

おすすめ度 ★ ★ ★ ★ ★

～編集後記～

地元を離れて4年。遠く離れてみて、初めて知る良さがあります。また、今回の勉強会で、生まれ育った土地のことを実はあまり知らない、その事実気付かされました。自分のバックボーンとなる故郷、今生きている地域…大切に思う場所が増えていく、とても幸せなことであると感じています。自らを育ててくれたまち、子どもを育ててくれるまち、それらをしっかりと理解する、それがこの国を、そして世界を知ることにつながるのだと思います。（境）